

鉄は熱いうちに打て！

摩耶山地 摩耶山

【前回までのあらすじ】

2016 年末～2017 年年始にかけて摩耶山地の北端の金峰山から藪をかきわけ、雪でびしょぬれになりながら、主峰・摩耶山 1019m をめざして歩いた。しかし 4 日目、山頂目前にしてやむなく下山。下山地点は 915m ピーク。原因は私の燃料計算ミスであった。915 m に立ったのは 12 時すぎだったので予定の幕場までは余裕だった。明日には摩耶山の山頂に立ち、みんなで笑顔の記念撮影のはず…だがしかし。山頂を越えた先、泊まった場合全員の飲み水や食事を作るだけの燃料が足りない。明日、一気に山頂を越えて下山するしかないが、この藪と沈む雪、しかも山頂の地形を考えると時間がかかるかもしれない…。田村さんに相談する。答えはひとつ、心もひとつ、「下りましょう」。そうと決めれば温泉とおいしい海の幸&酒めがけてすたこら下山した。

【摩耶山完結編】

1 月のある集会でのこと。隣にいた田村さんが耳元でささやいた。「摩耶山いつ行きます?」。その目はキラリと光っていた。おっと、私も考えていたのですよ、田村さん。気が合いますね。大人の階段も下り始めている私たち、やり残しの宿題は早めに片づけないといけません。気持ち熱いうちにやりましょう！ その場で即決。メンバーに日程を連絡するとなんと！ 参加するというではありませんか。鉄は熱いうちに打て、摩耶山登頂への期待は高まる。

3月4日 (土) : 曇りのち小雪

夜行バスと電車とタクシーを乗り継いで、また来てしまった越沢集落郵便局前。いよいよここからリベンジだ。身支度を整えていると近所の人が声をかけてくる。ここから摩耶山に登ると話すと、皆一様に驚く。そりゃそうだ、普通の登山口はここよりずっと南。こんな所から大荷物を持って歩き出す人は皆無だろう。

集落の外れで早くもワカンやスノーシューを履き、雪に埋まった林道をたどる。途中から予定の道を外れてしまったが結果オーライ、そこが尾根の末端だったのでそのまま取り付いた。急斜面もあるが、雪は総じてさほど沈まず歩きやすい。トップを交代しながら登っていくと、前回下った尾根が見る間に近づいてくる。小さく下って登り返せば、年末に来た 803m のポコに合流だ。さらに一登りで 915m の主稜線に到着。この 803～915m 間は年末、藪をかき分けながら視界のないなかを苦労して進んだ記憶が新しいが、今日はまるで別世界のようだ。多少のアップダウンはあるものの、美しいブナ森で歩くのに何の障害もない。結局、主稜線まで 3 時間ほどで着いてしまった。こうなれば今日のうちに山頂を越えて登頂祝いの宴会もいいなと思ったのだけど、リーダーがお疲れだし(夜行バス内が暑くて寝られなかったのです by 松本)、このあたりがあまりに美しいブナ森の天場適地なので、昼前だが今日はここまで。

テントに入って間もなくガスが濃くなり雪が降り出して、先に進まなくてよかったと一同納得。春の兆しを見せる森の中で優雅な時間を楽しんだ。(田村記)

【日程】

2017 年 3 月 4 日 (土) ～
5 日 (日)

【メンバー】

松本 (L)、田村、棚橋、栗原、野口

【地形図】

木野俣

【記】松本ほか

3月5日(日)：曇り時々晴れ

夜中、ブーっと車が走る音が聞こえた。標高 900mほどのところにテントを張って寝ている私たち。こんな里に近いから車の音だって、犬の鳴き声だって聞こえそうだ。翌日は3時起床。準備を整えたらまだ5時少しまえだったが、野口くんがさっさと歩きだす。そうそう、野口くんは今回のために8kgの減量に成功し、かつての精悍な野口くんにもどりつつあった(あと5kgらしい)。リバウンドしないことを強く望みながら、後ろ姿を追う。ヘッドに照らされてブナの枝についた白い霧氷が闇に浮かぶ。強い西風のせいだろう。霧氷はエビのしっぽになり、すべて同じ方向を向いている。その西風は稜線の雪庇をつくる。山頂はどのようになっているだろうか。

山頂への登り返しの鞍部に来た。空も明るくなってきて、摩耶山の頂稜部が見えた。雪庇がでかそう。アイゼン、ハーネスを着ける。ロープは使わないかもしれないが念のため。登っている途中、山頂はリーダーがどうぞ、と棚橋さんがトップを譲ってくれた。稜線がだんだん細くなるのが傾斜の強さでわかる。右側の傾斜はきつく、滑ったら止まらないだろう。左側の雪庇の境目がわからない。きつい傾斜にバイルを出して、横向きになり、つま先をけり込んで進む。そろそろ山頂に来ているはずだが、どこかなあ？ GPSを見るとここがまさに山頂だった。顕著なピークではないのでわかりにくい、記念撮影をする。

先で傾斜はゆるみ、あとは下るのみ。遠くには朝日連峰も見えるはずだが、薄い雲がかかって見えない。摩耶山山頂から派生する尾根には鉾ヶ峰と鑓ヶ峰というすどいピークがあり、それを見たかったのだが、これも雲に隠れてしまっている。ここも雪の時期に行ったらかなりスリリングだろう。下っている途中で、登山者の姿が！今日は天気もいいので登山日和。地元で愛される摩耶山である。9時10分、関川登山口に着いた。私たちの摩耶山は無事に完結したのであった。おしまい。(松本記)

【行程】

3/4 越沢(8:10)～C915m(10:52)～C925m(11:17)C1

3/5 C1(5:00)～摩耶山(6:20)～関川登山口(9:10)

【メンバーの感想】

田村：鶴岡から摩耶山をつなぐという、誰も思いつかないようなことを実現できたのは非常にうれしかった。しかもこういう計画に5人も揃い、リベンジ山行もだれひとり欠けることなく参加というのはスゴイと思う。OBの仁さんとの交流もでき、心に残る山行をまたひとつ重ねることができて、心より満足している。

棚橋：年末年始は寡雪の摩耶山であったが、今回は十分に雪を纏った摩耶山を満喫することができた。これが本来の「冬の摩耶山」なのだろう。町にも近い上、高さも1000mそこそこのため里山感を拭いきれないが、訪れてみると厳しい気象条件に晒されていることが、ひしひしと伝わってきた。バスや電車に乗っている時間も短くなかったが、いろいろな楽しさを実感できたよい山行だった。リーダーの周到な計画と、メンバー全員の「今度こそ摩耶山に登りたい」ということで気持ちが一つになっていたことが、今回の充実感に繋がったのではないかと思う。

栗原：早春の摩耶山はブナのきれいな、美しい山だった。年末年始の気難しさはすっかり影を潜め、我々をやさしく迎え入れてくれた。来てよかった。

野口：年末年始、激しい藪に阻まれて撤退した摩耶山は、3月に訪れると山毛櫨森の広がる美しい山でした。季節、状態によって山の印象は激的に変わることを肌で感じることができました。藪のつらい思い出も山頂に立った後に振り替えるとよい思い出ですね。

松本：摩耶山地をつなげながらも縦走できました。みなさんの熱い思いの賜物です。改めて、こういう山を続けたいなあ～と思いました。ありがとうございました。

美しいブナ林。テント場をただいま物色中



稜線は細く、雪庇が発達、ほとんど壁状態



山頂ですが、ただの斜面でした